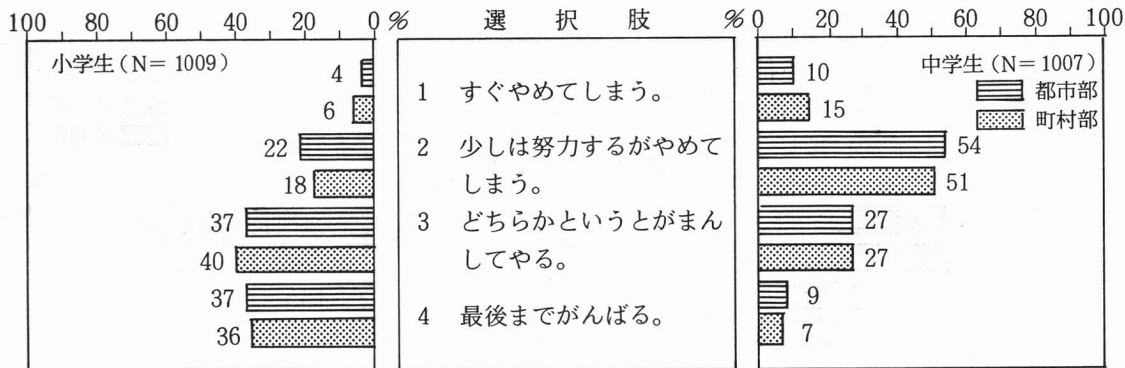


耐性特性〔耐久力（不とう不屈）〕 家庭生活の場面

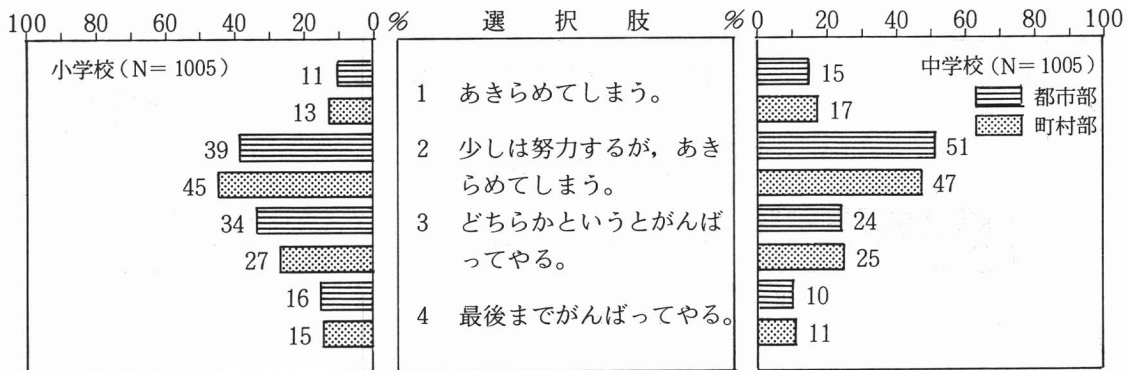
〔児童生徒〕

問い あなたは家で勉強などをしていて、とちゅうでむずかしくなったり、あきたりしたときどうしますか。



〔保護者〕

問い あなたのお子さんは、勉強などをしていて、むずかしかったり、ゆきづまったりしたとき、どうしますか。



この設問は、耐久力の要因の一つである「不とう不屈」について、児童生徒の実態を把握しようとしたものである。

まず、家庭における勉強などを通しての子供の姿をみると、小学生においては、選択肢3、4を合わせた、いわば「がまんしてがんばる」という回答が75%であるのに対し、中学生は、選択肢1、2を合わせて「やめてしまう」が65%となっている。

ところで、このような小学生の自己評価に対し、その保護者の方は、選択肢1、2を合わせて「あ

きらめてしまう」の見方が54%であり、子供自身は75%が「がんばる」と自己評価していても、親はそのようにはみていないと言える。

その点、中学生の親は、「あきらめてしまう」に当たる回答が65%あり、子供の評価と一致する。このことから考えれば、中学生には耐久力の乏しさをうかがうことができる。

一方、学校生活においてはどうかのをみるため、マラソンという事象からとらえたわけであるが、小学生で86%、中学生で89%が選択肢3、4の「がんばる」の方に答えている。このことは、